

# 「アジア経済・環境共同体」構想の概要

## ○基本的考え方

- ▶ アジア地域は「世界の成長センター」「世界の工場」として著しい発展。FTA/EPA網も整いつつある。環境保全分野においても共同で行動。また、中産階級の台頭を背景に豊かで繁栄した社会へ発展する萌芽も見られる。
- ▶ 一方、域内経済格差、環境問題・エネルギー制約、インフラ不足、人材育成等、成長を続けるための大きなボトルネックが存在。
- ▶ 我が国としては、経済の成熟化、少子高齢化の中、「アジアの発展に貢献し、アジアとともに成長すること」を成長戦略の要とする必要。

・上記の観点から、以下の4つを目標に「アジア経済・環境共同体」の実現を目指す。

- ①環境と共生しつつ発展するアジア ②成長をリードするアジア③中産階級のアジア(現状:4億人/32億人→2030年:23億人/39億人)④開かれたアジア
- ・「東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)」を最大限活用。

## ○重点プロジェクト

### 1. 環境・エネルギー

「クリーンアジア・イニシアティブ」の推進により、環境保全と経済成長を両立し、低炭素型・資源循環型の持続可能な社会の構築を目指す。同時に、世界で最も環境に優しくエネルギー制約に強い市場を実現する。

#### アジア環境政策の展開

- アジアで低炭素・低公害(コベネフィット)型の環境対策の普及を推進。2009年度までにERIAを活用してアジア各国の取組状況を「見える化」。これを受け「東アジア『持続可能な発展』アウトック」の作成により、各国に対して政策提言。また、省水型・環境調和型の水資源管理や、エコタウンを通じた3R技術をアジアに展開。

#### アジア・サステナブル・エネルギー

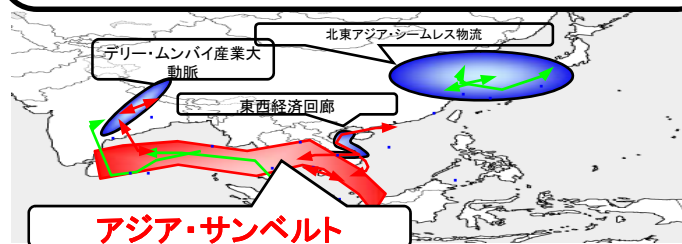
- 持続的なエネルギー利用を可能とするため、中国をはじめとしたアジア地域の石炭火力発電所の効率化やゼロエミッション石炭火力の進展を推進。共通ロードマップの作成等を通じ、アジアにおける石油備蓄の取組を強化。

### 2. 人・モノ・資本・情報のシームレスな移動

人・モノ・資本・情報のシームレスな移動が可能になるように、物流高度化、制度調和・高度化、知識経済化、資金循環の活発化、人材育成といった経済統合を支えるソフト・ハードのインフラ整備に地域大で戦略的に取り組む。

#### 「アジア・サンベルト(仮称)」構想

- 成長潜在力に比して物流インフラが脆弱な「南部経済回廊(ホーチミン～プノンペン～バンコク)」からチェンナイに到るルートにおいて、物流・産業インフラの一体的整備、貿易手続等の制度インフラの改善等を支援。2009年度までにF/S調査を実施し、2011年度までの事業化を図る。



### 3. 消費者市場の活性化

アジアから世界への消費トレンドの発信を可能にするとともに、中産階級を中心とした豊かで啓発された消費者からなる高信頼の市場をアジアで構築。

#### 「アジア電子流通圏」構想

- アジアの中小企業等による国境を越える販売を飛躍的に容易にするため、「アジア電子流通圏」を構築。2009年度までに実証実験等を進め、2011年度までに越境取引に伴うアジア各国での決済及び物流の制度上の課題解決を促進。